

授業科目名	身体コミュニケーション実習	担当教員	木田 真理子 児玉 北斗 深澤 南土実 岩下 徹
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	実習		
開講年次	1年第1・3クォーター		
講義内容	この授業の目的は、会話やダンスなどを通じて身体的なコミュニケーションや表現の可能性を知ることにある。内容は主に、会話や踊りが起こりやすい空間や人との間合いなどを探りながら、身体感覚に基づくコミュニケーション(交感や共感)のあり方を学ぶものとなる。		
到達目標	<p>1. メンバー間で、身体感覚に基づくコミュニケーションを／も取ることができるようになる。</p> <p>2. 身体表現の魅力を、観客に届かせることができるようになる。</p> <p>3. 自身の体験や他者の表現について感じたこと、思ったことを人に言葉で伝えることができる</p>		
授業計画	<p>初回にオリエンテーションを行い、授業内容についてあらため説明する。その時に受講者の関心や要望についても聞く。大きくは次のような内容を用意している。</p> <p>01：立つ、歩く、話す、聞く【木田、児玉】</p> <p>02：他者の身体とコミュニケーション【木田、児玉】</p> <p>03：コンタクト(身体を預ける、受け取る、動きが生まれる)【児玉】</p> <p>04：ソマティックス(身体の内的な感覚と動きとの関係)【児玉】</p> <p>05：ケアとセラピー、自身の身体への意識【児玉】</p> <p>06：ライブ・コンポジションA(環境から誘発される動きの構成)【児玉】</p> <p>07：ライブ・コンポジションB(グループで動きやポーズをゲーム的に構成する)【児玉】</p> <p>08：ライブ・コンポジションC(構成のシステムを理解し、実践する)【児玉】</p> <p>09：1~8のまとめ【児玉】</p> <p>10：身体表現における視覚(見える/見る/見られる)【木田】</p> <p>11：身体表現における聴覚(聞こえる/聞く/聞かれる)【木田】</p> <p>12：身体的なコミュニケーションや表現を深める(感覚/感情)【木田】</p> <p>13：身体的なコミュニケーションや表現を深める(物体/空間)【木田】</p> <p>14：身体的なコミュニケーションや表現を深める(想像/イメージ)【木田】</p> <p>15：身体の内やかなコミュニケーションや表現に向けて【木田】</p> <p>16：10~15のまとめ【木田】</p> <p>17：「身体感覚の気づきと慈しみ」(自己マッサージ、ヨガ、動功等を基に。)【岩下】</p> <p>18：ひとりの即興①(身体を解し緩めつつ、内発的・有機的な動きを探る。)【岩下】</p> <p>19：ひとりの即興②(絵や言葉等を用い、自発的・〈自動詞的〉な動きを探る。)【岩下】</p>		

	<p>20：ふたりの即興①(2、3 者でそれぞれ相手(仲間)を感じて動く非言語的交流)【岩下】</p> <p>21：ふたりの即興②(様々な設定でそれぞれ相手(仲間)を感じ動く非言語的交流)【岩下】</p> <p>22：みんなの即興①(色々なイメージや設定をみんなで共有する集合的即興)【岩下】</p> <p>23：みんなの即興②(更なるイメージや設定をみんなで共有する集合的即興)【岩下】</p> <p>24：みんなの即興③(それぞれ皆と共振・共鳴・共存・共生する《多中心》の場)【岩下】</p>
事前・事後学習	<p>児玉：授業内容を踏まえ、生活の中で「身体的なコミュニケーション」を感じるときのことと関連させて記述する(事前・事後学習として週4時間程度)。</p> <p>木田：自分の嗜好や振る舞いが何から影響を受けているかを反省し、記述してみる(事前・事後学習として週4時間程度)。</p> <p>岩下：毎回の授業内容を、授業外の時間で事前に思い描いたり事後に振り返ったりした時、自分の人生と何らかの関係が有るのでは!? / 全く無いのでは!? と思われ、覚えて置きたいことが有れば書き留める(事前・事後学習として週4時間程度)。</p>
テキスト	特に指定しない
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・富田大介編『身体感覚の旅』(大阪大学出版会、2017年) ・池田晶子『14歳からの哲学-考えるための教科書-』(トランスビュー、2003年) ・伊藤亜紗『記憶する体』(春秋社、2019年) ・三村尚彦、門林岳史編『22世紀の荒川修作+マドリン・ギンズ 天命反転する経験と身体』(フィルムアート社、2019年) ・東畑開人『居るのはつらいよ ケアとセラピーについての覚書』(医学書院、2019年) ・ウィリアム・フォーサイス『インプロヴィゼーション・テクノロジーズ 分析的ダンスの視線のための道具』CD-ROM(慶応大学出版会、2000年) ・村上靖彦『交わらないリズム 出会いとすれ違いの現象学』(青土社、2021年) <p>ほか、適宜紹介する</p>
成績評価の基準	<p>平常点 40%：毎回の授業中の様子をもとに到達目標の1と2から判定する。</p> <p>課題 60%：前半・中盤・後半の授業内容に関する計3回のレポートを課し、到達目標の3から判定する。</p>
履修上の注意 履修要件	<p>この授業では複数人でワークすることが多くなるので、遅刻には気を付けること。</p> <p>他の参加者との身体的接触を伴う場合があります。強く抵抗がある場合は</p>

	教員とよく相談の上で履修してください。
実践的教育	芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	授業内容および教員の担当回については最初の授業で説明する。